

## 事業完了（廃止等）報告書

### 調査研究期間等

調査研究期間	令和元年5月22日 ～ 令和2年3月13日
調査研究事項	<p>《委託研究Ⅰ》</p> <p>ア. 都道府県、市町村それぞれに求められる役割に関すること</p>
調査研究のねらい	<p>夜間中学に対する市町教育委員会の理解を深めるとともに、市町と県との役割分担や連携の仕組みなど、設置の在り方を検討する。同時に、不登校支援、外国人支援の一環としての夜間中学の在り方を検討していくために、庁内関係他部局と連携していく。</p>
調査研究の成果	<p><b>1 調査研究の内容</b></p> <p>(1) 市町教育長会等での説明（5月～）          夜間中学設置に向けての県の方針及び今後の計画の概要を説明し、市町教育委員会に理解と協力を求めた。</p> <p>(2) 夜間中学研修会の実施（7月26日）【資料1】</p> <p>ア 目的          夜間中学に対する市町教育委員会の理解を深めるとともに、県の現状を伝え、設置検討を呼びかける。</p> <p>イ 開催場所          静岡県庁</p> <p>ウ 参加者          ・各市町教育委員会担当者（悉皆）          ・浜松市教育委員会担当者（希望参加）</p> <p>エ 内容          ・講義          「夜間中学とは何か ～教育機会確保の場として～」          講師：静岡県立大学国際関係学部 高畑 幸 教授          ・行政説明          「静岡県における夜間中学の必要性と、設置に向けての取組」県教育委員会義務教育課担当</p> <p>(3) 視察及び研修会等への参加</p> <p>ア 視察          (ア) 視察先：京都府京都市立洛友中学校          (イ) 視察日：令和元年8月27日          (ウ) 視察者：県教育委員会義務教育課担当</p> <p>イ 研修会          (ア) 研修会：夜間中学日本語指導研修会          （文部科学省主催）          (イ) 研修日：令和元年8月28日          (ウ) 出席者：県教育委員会義務教育課担当</p> <p>(4) 設置検討意向調査実施（8月22～9月13日）【資料2】</p> <p>ア 対象：各市町教育委員会</p>

イ 内容：夜間中学の設置検討の意向について調査  
ウ 結果：管内33市町のうち2市が「設置検討意向有り」と回答

**(5) 設置検討意向があると回答した市との調査研究**

ア 当該市長への説明

当該市教育委員会の要請を受け、県教育委員会義務教育課より課長及び担当が当該市長に夜間中学について説明及び設置協力依頼

イ 視察及び研修会等への参加

(ア) 令和元年12月6～7日

・全国夜間中学研究大会兵庫大会

(全国夜間中学研究会主催)

・兵庫県神戸市立丸山中学校西野分校視察

(イ) 令和2年1月10日

・令和元年度夜間中学設置推進説明会

(文部科学省主催)

・東京都世田谷区立三宿中学校視察

ウ 当該市教育委員会におけるニーズ調査への支援

・県で実施したニーズ調査方法、調査結果等の提供

・調査協力先の紹介

**(6) 夜間中学についての広報活動【資料3】**

県教育委員会発行の教育広報誌「Eジャーナルしずおか」(10月7日)において、夜間中学についての記事を掲載

**2 調査研究の成果及び課題**

**(1) 県内各市町における夜間中学への理解が進んだ**

県内においては、夜間中学の存在そのものが知られておらず、その必要性が理解されていなかった。市町教育委員会を対象とした夜間中学研修会を行ったことにより、各市町において夜間中学について関心を持つきっかけとすることができた。出席者からは、「学び直しを必要としている人が、予想以上に多くいることに驚いた」「不登校児童生徒や外国籍の子供への支援は難しいものだが、『夜間中学』という手立てもあるということを今回の講義で知ることができた」「夜間中学の必要性について、(自市町の)教育委員会に伝えていきたい」等の感想が寄せられた。

**(2) 県内における夜間中学への関心が高まった**

平成30年度に県で夜間中学のニーズ調査を行った際にひきこもり支援団体や国際交流協会等と連携したことや、県の教育広報誌で夜間中学についての広報活動を行ったことにより、県内の団体主催による夜間中学を紹介する映画「こんばんはⅡ」の自主上映会が開催されるなど、夜間中学への関心が高まっている。

**(3) 市町単独での設置の難しさが明らかとなった**

本年度は、各市町を対象とした研修会の開催や、設置検討意向のある市町との調査研究を行ってきた。しかしながら、夜間中学の入学希望者が県内の広域に存在することや、入学者の継続的な需要見込みの把握の難しさ、設置・運営費用等の問題があり、市町単独での設置は難しいことが明らかとなった。今後は、引き続き市町と連携しつつ、県内全域におけるニーズを把握した上で、設置形態や設置場所を検討していく必要がある。